



2007年

11月

あおぞら財団 会員総会 開催

(記事は10面)



“自転車力”

環境性、利便性、健康増進、人間発達…自転車は、様々な魅力を持つ乗り物。

「大阪のメインストリート御堂筋を、自転車の魅力PRや走行環境の整備を求めて、1万台で走行する」を合言葉に、昨年9月に発足した「自転車文化タウンづくりの会」が、いよいよ走りだしました。

会が主催した「自転車まち巡りツアー」（9月24日）には31名が参加。上町台地北部と歴史・都会のほっとスペースなど4つのグループに分かれ、3時間程の自転車の旅を楽しみました。

参加者からは、「自転車の速度は距離もかせげ、立ち止まる余裕もあり、多くのものを見せてくれた」という自転車の魅力を語る声の一方で、「駐輪禁止ばかりで、止める場所がない」の声もありました。

●目次

特集 記録のひろば～エコミューズ

〈SHITEN〉地域再生の「道具」としてのエコミュージアム	嵯峨 創平	2
地域学習のお手伝い① 西淀川地域研究会・まちあるき	小田 康德	4
地域学習のお手伝い② 西淀川図書館での展示 3年目になりました	鎗山善理子	4
大野川緑陰道路を題材にした西淀川地域を学べる冊子を執筆中	林 美帆	5
〈本の紹介〉資料を見る目が変わりました		
『青い空の記憶～大気汚染とたたかった人びとの物語』	宮本 弥生	5
西淀川区が平成19年度環境省ESDモデル地域になりました		5
西淀川公害を伝える～埼玉大学安藤聡彦ゼミが訪問	編集部	6
研究に役立っています	入江智恵子	8
エコミューズ活動資金寄付協力をお願い		9
エコミューズの資料を電子化しています	林 美帆	9
〈連載〉いテ・グスタ・エスパーニャ? スペインは好き?⑨	田村 隆好	3
〈リレーエッセー〉「ここはふるさと!」と胸はって言える街に	永野千代子	10
〈忙中一筆〉「成長か?停滞か?」なんて、寝ぼけたことを…	遠州 尋美	12



環境再生にかかわる課題を、さまざまな視点から自由に論じるコーナーです。

特集 記録のひろば～エコミューズ

おかげさまでエコミューズ（西淀川・公害と環境資料館）が開館して1年半が過ぎました。研究だけではなく、資料探しや地域学習のお手伝いなど、エコミューズができることが増えてきています。分かりやすく親しみやすい資料館として、願わくば人と人がつながる開かれた場になれるよう活動を続けています。

地域再生の「道具」としてのエコミュージアム

嵯峨 創平

環境問題への貢献策として誕生した
エコミュージアム

あおぞら財団の「エコミューズ」（西淀川・公害と環境資料館）の語源の一つになっていると想像される「エコミュージアム（フランス語ではエコミュゼ）」という語は、1960年代後半にフランスの博物館学者ジョルジュ・アンリ・リビエルらが構想した新しい博物館概念である。当時ICOM（国際博物館会議）の会長をしていたリビエルによって1971年のICOM総会へ提唱・採択され、1972年にスウェーデンのストックホルムで開催された「国連人間環境会議」に博物館界から環境問題への貢献策として提唱され、ヨーロッパを中心に活動が始まったという経緯を持つ。当初ヨーロッパでも、自然公園や農山村での展開が多かったが、その後は都市部の展開にも力が注がれるようになった。20世紀の都市居住や近代化遺産を住民の記憶とともに保全する活動や、現代ヨーロッパで共通の関心事となっている少数民族や社会的弱者への社会的包摂アプローチを意識した教育活動も行われている。

住民参加による地域再生の「道具」としてのエコミュージアム

日本にエコミュージアムが紹介されて20年が経過した。この間にエコミュージアムは多様な展開や意味の広がりを見せているが、多くは農山村の観光振興であったり、新たな地域計画の構想を表すキャッチフレーズに終わっていて、エコミュージアムの本義である「経験の全体性（*globality*）：グローバルテ」→グローバルセッションに対抗するコミュニケーションの意義と経験の尊重」という視点が見落とされている場合が多い。

従来型の博物館が、「建物」「収集品（コレクション）」「専門家（学芸員）」が中心であるのに対して、エコミュージアムでは、「領域（テリトリー）」「地域遺産・記憶」「住民参加」が中心になる。エコミュージアムは、地域の遺産や記憶そのものを保存・研究・展示していく中で、住人自身が地域を知り、学習と交流を通じて地域発展に寄与することを目的としている。博物館活動の3要素を住民主体の活動に読み替えながら、地域再生を図る「道具」(もつと

正確に言えば「触媒」としての役割を果たすがエコミュージアムの目的なのである。

地域再生に挑戦する
日本のエコミュージアム活動

地域再生に挑戦するエコミュージアム活動は、わが国でも幾つか見られる。その好例が、水俣市の「村丸ごと生活博物館」であろう。長年にわたって水俣病の被害と闘ってきた地元住民のコミュニティ再生（もやい直し）と地域創造の活動として、1990年代に「地元学」の活動が水俣市全域で展開された。その成果の上に2001年から頭石集落を先陣に「村丸ごと生活博物館」の活動が始まった。「元気村づくり条例」という名の地区環境協定を地区と市が締結した上で、山村で行われてきた「普段の生活」を案内しながら都市住民との交流活動を行っている。交流を重ねながら、住む人々が己の持つ力に気付いていくことが地域再生への自信に繋がっている。

日本の公害問題の原点といわれる足尾銅山の鉱毒被害や環境破壊の傷跡をのこす日光市（足尾地区）では、はげ山を再生するための市民の植林活動が1995年から始まった。その活動は全国の市民ボランティアを呼び込み、地元行政をも動かして、今では「負の遺産」から学ぶ環境学習・環境保全の活動として「エコミュージアムあしお」が展開されている。



活動報告書とリーフレット

あおぞら財団「エコミューズ」の
「コミュニティ・ミュージアム」として
の可能性

エコミュージアムの命名にリビエルと共に参加したユング・ド・ヴァリーヌは、最近のエコミュージアム国際会議（2000年・リオデジャネイロ）において、「持続可能性の概念はコミュニティを良い状態で維持することと同義である」として、住民の内発的な力を活性化するためのプログラムづくり、すなわちブラジルの教育学者パウロ・フレイレがいう「意識の開発をデザインすること」の重要性を指摘している。またヴァリーヌは、1960年代の思潮と共に始まったエコミュージアムは、今やより包括的な対象と社会問題との関連を意識した「コミュニティ・ミュージアム」という語に改めた方が適切だと説いている。マイノリティや社会的弱者の意見を汲み上げながら、コミュニティの問題解決に博物館の機能（教育・文化・科学の方法）を通じて貢献していくコミュニティ・ミュージアムの方法は、あおぞら財団の「エコミューズ」の今後の方向性の一端を示唆していると思われる。

（さが そつへい・NPO法人
環境文化のための対話研究所
（IDEC）代表）

<http://www.npo-idec.com/>



田村 隆好

レンタサイクル - Sebici - 始動

今日この
コラムを書
いている10
月12日はス
ペインの祝
日です。何
の日かとい
うと、14
92年10月

12日にクリストバルコロン（コロンブス）が新大陸を発見した日であり、スペイン各地でこれを記念した様々な催し物が行われています。

以前何回かコラムにSevilia市内におけるレンタサイクルの話を書きました。今回はちょっと詳しく書いてみることにします。Sevilia市ではSebicicliと呼ばれるこのレンタサイクルを2008年までに市内250カ所に2、500台配置することを決定し（現在150カ所1500台体制）、市内各地で駐輪場の設置工事が行われています。このSebicicli、30分以内の利用なら料金はなんとただ。ただのモノなど無いと



シドラのパフォーマンス

いわれるスペインでは有り得ない大出血サービス。その後の1時間は0・5ユーロ（年間券）、1ユーロ（週間券）で利用できます。365日24時間いつでも利用することができ、事前の申し込み方式で身分証明書、クレジットカード等が必要となりますが、これは借り逃げを防ぐためとのこと。また利用形態に応じて5〜10ユーロのデポジットを払う必要があります。申し込み後にカードを渡され、そのカードを各駐輪場に設置されている機械に差し込み駐輪機のロックを解除し使用、利用後は最寄りの駐輪所に返却するシステムです。

Seviliaでは自転車利用促進のプロジェクト（自転車道整備、Sebicicli等）が始まってから、自転車の利用者が増加し、その報告、結果等を扱った記事を紙面で見ることが多くなりました。作者も来週Sebicicliを申し込みに行く予定です。

8月の夏期休暇では船での国境越えやリオハとバスク（チャコリの産地）でワインセラー巡りをしてきました。どこのワインも美味しいですが個人的お薦めは「Rioja Alta社。小さい会社ですが、日本でも飲めるので是非お試しを。Salus乾杯！」

（たむら たかよし）

エコミューズのしごと



来館者に説明する小田館長（中央）

「資料を生かして地域をもっと深く知ろう」、「地域を深く知って資料をもっと生かそう」。この想いを持って、私はずっと前から財団の援助を得て西淀川地域研究会を開いてきました。こんどエコミューズ

ができたのを機に、これをエコミューズ

主催の行事として位置づけなおしました。2006年度には林美帆さんの「西淀川地域における工業専用地域指定反対運動」をはじめ、私の「阪神工業地帯の形成と西淀川の

変遷」、村松昭夫氏の「アスベストと健康被害の歴史」などの研究報告をおこない、11月には永大石油の跡を尋ね、12月には翌年3月のエコミューズ1周年を記念して西淀川歴史

地域学習のお手伝い①
西淀川地域研究会・まちあるき

まちあるきを企画して、その準備的な下見会を開き、2007年3月それを実施しました。研究会には地域の方や研究者の方、あるいは財団職員が毎回参加して、楽しく、話に花が咲いていましたが、まちあるきに

は小学生も参加し、空襲で死んだ住民の名を記した地蔵を見て戦争を感じたり、今はない阪神電車の路面跡を確かめて驚いたりしました。また、姫島神社では修復ができたばかりの大事な宝も見ることができました。今年度に入ってもこの活動はずっと続けます。地域に密着し、

（小田康徳・エコミューズ館長、大阪電気通信大学教授）

地域学習のお手伝い②

西淀川図書館での展示 3年目になりました

西淀川図書館には一般の市民やグループが利用できる展示コーナーがあります。エコミューズでは2005年から毎年秋に、そのコーナーを利用して、展示をおこなってきました。1年目のテーマは「大野川緑陰道路のいま・むかし」、2年目は「見つけたよ西淀川の自然」、3年目は「西淀川の自然と交通をマップで診断」です。2ヶ月の展示期間中には、多目的室で、石けんづくりや、

ハガキづくり、ビデオ上映などの教室開催もおこなってきました。

「どんな展示にしようか」、「今度の教室は何をしようか」と悩む私たちを図書館の館長さんや学芸員の方がいつも親切にサポートしてくれました。展示そのものは、インターンの大学生や区内の子どもたちが制作した作品を活用するなど、まさに参加型展示です。

図書館におとずれた人たちの心



図書館での展示

に、エコミューズやおぞら財団のこと、地域の歴史や公害のことが、展示を通して伝わればいいなと思います。（鎗山善理子・財団研究員）

大野川緑陰道路を題材にした 西淀川地域を学べる冊子を執筆中



西淀川は万葉集に登場するほど歴史がある地です。歴史にまつわる話が豊富な地域です。西淀川区のシンボルである大野川緑陰道路もその一つ。始まりは中島大水道という農業用排水路でした。現在の新大阪駅近くから西淀川の福までの9・5キロメートル、1678年(延宝6)に農民がお金を出し合って50日で完成させました。その後工業用の輸送など西淀川の発展に役立てられてきましたが、水質汚染のため公害対策として埋め立てられました。跡地に道路を建設する計画がありました。住民の反対によって自転車歩行者専用道路の緑陰道路に生まれ変わったという歴史があります。現在は、自然観察ができるほどに緑も

生い茂っています。

このような背景があること、自然観察の題材になることを小学校の学習に取り入れたいという思いから、出来島小学校の天野憲一郎先生を中心に有志が緑陰道路教材づくり研究会を結成し、2年ほど活動を続けてきました。この10月には理科編と歴史編をまとめた素案が完成しました。エコミューズもお手伝いしています。(林 美帆・財団研究員)

本の紹介

資料を見る目がかかりました

『青い空の記憶

大気汚染とたたかった人びとの物語』2000年

著:新島洋 監修:西淀川公害訴訟原告団・弁護団
教育史料出版会 1600円



この本は、西淀川公害の患者・遺族、弁護士、西淀川に住む人々など、西淀川公害に関わった人々の「手渡したいのは青い空」という思いが詰め込まれた本です。

この本を読み、市民の力の偉大さを強く感じました。国・企業を相手にした裁判で勝利したのは、患者や市民、弁護士、さまざまな分野の学者など多くの方が団結したからです。学者や弁護士は、患者や市民の「きれいな空気のもとで普通の生活をした」と願う気持ちに心を動かされ協力し、患者の方も、喘息がでるから行かないと家族に止められても、「死んでもかまへん」と言って運動に参加するなど、みんなが西淀川の空をなんとかしたいと強く思う気持ちが伝わってきました。

ESD(持続可能な開発のための教育)の10年が2004年から始まっています。ESDとは一人ひとりが、世界の人人や将来世代、また環境との関係性の中で生きていくことを認識し、行動を変革するための教育といわれています。環境教育に、経済、社会のテーマ・観点

西淀川区が

平成19年度環境省ESDモデル地域

になりました

を盛り込み、持続可能な社会)を盛りに取り組む人材育成へと発展させた教育であり、今までの知識詰め込み型とは違う教育が目指されています。この概念の「地域における実践」の具体

化のため、地域に根ざしたESDのモデルを示すことを目的に、環境省が国連ESDの10年促進事業を展開している事業です。大気汚染公害という問題を抱える西淀川

この本を読んでからエコミューズに行くのと、たくさんある資料を見る目がかかりました。エコミューズにある裁判資料や患者の日記など生の資料を見ると、あの時、人々が命を削ってでも必死で大気汚染と闘っているのがリアルに感じるような気がします。西淀川公害の患者・遺族、弁護士、西淀川に住む人々など、多くの方の団結で取り戻した「青い空」を、私たちがさらにきれいにして次の世代に手渡していかなければならないと強く感じた本です。(宮本弥生・2006年度インターン・龍谷大学大学生) エコミューズにて販売しています

<http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/index.html>

害を伝える

ゼミが訪問

の学生12人とともにエコミューズへ。
の過去と現在」。その1日を追ってみました。

エコミューズのしごと



9:10

■安藤先生と学生12人が到着
■西淀川公害とおおぞら財団について簡単に説明
■フィールドワークコースの説明

大野川緑陰道路(全長4.3km)〜江戸時代禁を犯して突貫工事をつくった農業用水路が国道43号の開通、工場排水の垂れ流しや生活排水の流入で汚染し、埋め立てて高速道路にしようとした行政の動きに対して、住民の反対運動で歩行者・自転車専用道になった経過等を説明。30年を経て大きく成長した木々の間を通って、姫島神社から公害医療センターへ。大阪府、大阪市が共同で出資し、区医師会が運営する公害医療の検査センターは、公的病院がなかった西淀川区独特の施設です。

10:20

■あおぞら苑
■公害患者さんのデイサービス事業

握手。握手。学生たちの3倍も4倍も生きてきた患者さんに、元気をもらつて



できました。

出来島小学校にある自動車排ガス測定局前では、43号線の大気汚染を「体感」。大阪府立西淀川高校へと向かいました。

11:00

■西淀川高校
■地域の高校と連携して進める環境教育

八木良治校長、辻幸一郎先生らが出迎え。同校の「環境」授業、おおぞら財団との連携です。環境教育「おおぞらプラン」について聞くとともに、同校4階にある西淀川公害の常設展示室を見学しました。

13:15

■西淀川公害、
■おおぞら財団ガイダンス
■ビデオ上映「西淀川公害裁判を闘つ」
■「公害被害体験を語り継ぐ」
(計13分/大阪人権博物館制作/2005年)
■パワーポイントを使った説明

田園広がるかつての西淀川地域の様子、大気汚染公害が発生した原因やその影響、住民たちが公害をなくそうと立ち上がり、

裁判を含めてさまざまな運動を展開したこと、裁判和解後は、地域再生のためのNPOをつくり、まちづくりをおこなっていること、などをビデオやスライドを使って、おおぞら財団のスタッフが説明します。

この時、「最近ニュースでも大きく取り上げら

17:45

感想記入

「え、こんなに書いてくれたの!!」と、こちらがびっくりするぐらい、A5判の用紙は小さな文字でびっしり。全部はご紹介できませんが、こんな感想を寄せてくれました。

私は沖縄出身で、「車社会」の中で生まれ育ってきたので、散策する前、そんなに交通量には驚かないだろうと思っていましたが、入り混じる道路、大型トラックの通過数に唖然としてしまいました。この空気吸っても大丈夫なのかなと思ってしまいました (2年 知花麻希)

私達は、外からの視点で公害など地域でおこっている問題を見てしまっているということに気づかされ、ショックでした。地域ということを考える以上、そこに住んでいる人たちの気持ちを考えることは本当に大切なことで、もしかしたら、一番根底にあることなのかなと思いました。(2年 松木綾子)

「過去の公害」これは「未来の環境保全」という言葉より何倍も聞こえが悪く、扱いにくい教育のテーマだと思えます。ただそこで過去の公害を忘れてしまうような教育では、また同じことがくり返されるのではないかと思えます。(2年 渡会真琴)

「手渡したいのは青い空」というスローガンです。すごい!!と思います。一人一人が



西淀川公害

埼玉大学 安藤聡彦

埼玉大学の安藤聡彦教授が9月25日、ゼミ
テーマは「地域と学校の連携による環境教育の

れていた、東京での大気汚染裁判を知っていますか？」というスタッフからの問いにたいして、手を上げた生徒は一人だけでした。でも、今日一日のフィールドワークを終えれば、実は身近なところにも大気汚染の問題があるということに目が向くのではないのでしょうか。

14:00

公害被害者の生の声を聞く

語り部

永野千代子 (西淀川公害患者と

家族の会事務局長)

森脇 君雄 (あおぞら財団理事長)

質疑応答

九州から大阪に移り住み、公害の被害にあつた永野千代子さん。公害病だつた息子さんを小学校4年のときに交通事故で亡くしました。校長先生が言った「苦しんでいる子を一人でも減らすために頑張ることが、供養になるのでは」という言葉で、永野さんは患者会の活動に熱心に取り組むようになりました。「死んだ子のため、自分のため、そして、みんなのために」。語り部さんの体験談や想いに、学生一同、耳を傾けました。

森脇さんは、かれこれ40年間、公害反対運動にたずさわって来ました。この運動にかかわるきっかけとなった、少年との出会い、国や大企業との壮絶なたたかひ、裁判闘争の裏での苦労話、日本の公害経験を世界へ発信していきたいといった、展望などを語りました。

15:15

あおぞらビル内見学

2F 西淀川公害患者と家族の会事務所

4F あおぞら財団事務所

5F エコミュージアム見学

大阪の街が煙で覆われている様子を撮影した航空写真に、みな驚き、熱心に見入っていました。「煙の中の通天閣」というタイトルの写真。「どこに通天閣があるの?」というくらい、煙について見えません。

16:00

あおぞら財団で取り組む
公害地域の再生

配布資料、パワーポイントを使った説明
ディスカッション

今回は教育学部に所属する学生たちの受け入れということもあって、あおぞら財団の活動の中から、環境学習の分野を中心に説明しました。とくに、ESD(持続可能な開発のための教育)のモデル地域に採択されたこともあって、今後、地域とどう連携して取り組んでいくのか、などの話題があげられました。

西淀川区を訪問するにあたって、事前学

習してきた学生たちからは、質問が相次ぎました。学校と連携するときの課題や、公害問題を扱う難しさ、西淀川高校でおこなわれている環境の授業についてなど、質疑応答を繰り返すうちに、終わりの時間がせまってきました。



受入の詳細は

<http://www.aozora.or.jp/ukeire.htm> で。

18:00

終了

西淀川高校における昨年の授業のお話がとても印象に残っています。その授業の展開や準備はすごいものだと思います。NPOと教師が一緒になってつくることによつてすごい授業、生徒の心にひびく授業ができるんだと感動しました。

(3年 中倉未希)

学生たちが残してくれた感想文は、語り部さんやスタッフの励みになります。また、今後の研修・見学の受け入れに、いかしていきたいと思えます。みなさん、どうもありがとうございました。そして、「お疲れさまでした!」

自覚をもつことで、身近な人のことを考えることでそれに広がりをもたせることができるのかと思いました。今日、塚口さんとお会いして、永野さんとお会いして、森脇さんのお話を伺って、私たちにとっては西淀川は決して遠い話ではなくなりました。

(3年 山田沙織)

エコミューズができること

研究に役立てています

入江智恵子

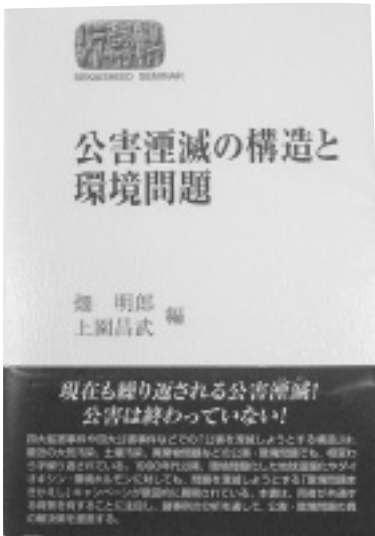
のを感じます。その度に、命を懸けて闘った患者さんたちに見せても恥ずかしくない、そうした研究ができればと気持ちを引き締めています。

地球環境問題が声高に叫ばれ、元の公害・環境問題への対応がなかなか進まない今日、公害問題と公害反対運動が提起した課題と教訓を、もう一度学ぶ必要があると思います。この春、大阪市立大学大学院の環境政策論ゼミ（畑明郎先生）が中心となって、1冊の本を出しました。畑明郎・上園昌武編著『公害湮滅の構造と環境問題』（世界思想社）です。この本は、四大鉱害事件や四大公害事件などに見られた「公害を湮滅しようとする構造」が、最近の公害・環境問題にも共通しているということを示す。第5章の「大気汚染公害に見る湮滅の構造 西淀川大気汚染公害を事例に」では、西淀川では何故問題が湮滅されずに、解決へつながつたのかという点を、裁判の争点をまとめる中で論じています。是非、ご一読いただければと思います。エコミューズには、これからもお世話になります。よろしくお願いたします。

（いりえ ちえこ・大阪市立大学大学院生）

私が初めて西淀川地域資料室（現西淀川・公害と環境資料館・エコミューズ）に足を運んだのは、今から2年前の2005年のことです。大学院に入学し、日本の環境政策や環境運動の歴史を学ぶ中で、大阪市西淀川区に公害反対運動が地域再生・環境再生運動へと広がっていった事例があると知ったのが、そのきっかけでした。その後、修士論文で西淀川の運動を本格的に取り上げ、日本の環境NPOを自らの研究テーマに据えてから、資料室そしてバージョンアップした資料館を頻繁に利用させてもらうようになり、今日に至っています。

私にとってこの資料館は、2つの意味で研究に役立っています。まず第1に、自分の研究を形にする際に、直接の材料を得られるという事です。戦後復興、高度経済成長期に



『公害湮滅の構造と環境問題』
編：畑明郎、上園昌武
世界思想社 1,900円

「何のために研究するのか」という事を考えさせてくれる場所でもありません。先に述べた一次資料は言葉を換えると、公害反対運動に関わった方々の生の声や感情が詰まった資料であるとも言えます。この運動は命を懸けて取り組まれたものであるという事実が、資料から伝わってくる



あおぞら財団附属 西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)

活動資金寄付協力をお願い

西淀川公害の記録はみんなの宝です

空気の汚染に長年苦しんできた大阪市西淀川区。
人びとは青い空を求めて活動を続けてきました。
その活動の証(= 記録)がエコミューズにはあります。
公害の経験は私たちに多くのものを教えてくれます。
環境・人権の大切さや、みんなの努力と協力で
まちを守ってきたことを。

西淀川公害の記録はみんなの財産です。
この宝物を次の世代、その次の世代へと
引き継いでいきましょう。
エコミューズを支えてください。

あなたの寄付金は青空へとつながります。



Hamon基金とは

Hamon(ハモン)基金はエコミューズの活動を継続的かつ発展的にすすめていくための活動資金です。西淀川公害に関する展示物やガイドブックの作成、企画展の開催、資料の収集と整理、資料の保存や閲覧環境の整備のために使います。一人ひとりの気持ちが波紋のように広がることを願って...

寄付の方法

郵便局からお振込いただけます。また、直接エコミューズにお越しいただいても結構です。
一口1,000円、一口10,000円、一口100,000円
口座番号 00960-9-124893
加入者名 あおぞら財団
一口の金額はお選びください。
通信欄に「ハモン基金への寄付」とご記入ください。

寄付者のお名前は報告書やホームページ等に記載させていただきます。ご都合の悪い方はその旨ご連絡ください。

エコミューズで所蔵している膨大な資料を、みなさんに活用してもらえようとコツコツと目録を作成してきました。所蔵資料すべての目録は完成していませんが、2万点の目録を作成してきて「貴重な資料」「わかりやすい資料」「劣化が心配な資料」などいろいろな資料があることが分かってきました。

エコミューズの資料を電子化しています

2006年度から環境再生保全機構の委託をうけて、エコミューズ所蔵資料の電子化が行われています。電子化することによって、「貴重な資料」「劣化が心配な資料」の複製や、みんなに見てもらいたい「わかりやすい資料」をインターネット上で公開することが可能になります。昨年度電子化した資料は、大気汚染公害の現状が見て分かる昭和30年代に大阪管区気象台が撮影した煙の航空写真、公害反対運動の内容や経年変化が分かる西淀川公害患者と家族の会の「総会議案書」や機関誌「青空」、西淀川公害訴訟の始まりと終わりが分かる「訴状」「判決」、裁判を支えた学者・医者への証言記録である「証人調書」、原告側弁護団の主張を整理した論文、「準備書面」など、わかりやすくかつエコミューズしかない貴重な資料を選定しました。

まだインターネットで公開する環境は整えられていませんが、環境再生保全機構のホームページで目録検索できるようにする予定です。みなさんに見てもらえるように努力していきます。

(林 美帆・財団研究員)

ほっと ニュース

韓国の高校生が日本の
大気汚染公害を学ぶ

韓国から元氣いっぱい
の女子高校生たちが、
8月3日、日本の大気汚染公害の歴史や現在の市民活動についてのインタビュー調査をおこなうために、あ
おぞら財団にやってきました。メン
バーは高校生5人と大学生の引率者
1人で、ソウル市のグローバルリー
ダー養成事業で選ばれたチームで
す。このチームの研究テーマは「日
本の大気汚染の対処方法と政策」。
このテーマを選んだきっかけは、メ
ンバーの一人の「ああ、きれいな空
気が吸いたいよあ」という言葉だっ
たそうです。どこの国でも大気汚染
の問題に悩まされているというこ
がわかります。

大阪市立佃中学校の職場体験 受け入れ

西淀川区内の佃中学校の2年生5
人(男子3人、女子2人)が、あ
おぞら財団で職場体験を9月21日にお
こないました。郵送作業やてづくり
せつけんのラッピング作業などに取

り組みました。区内の中学生といっ
ても、西淀川公害のことはどうやら
あまり知らない様子。そこで、お昼
過ぎには、あおぞら財団で制作した
環境教材ビデオ「手渡したいのは青
い空」未来からのメッセージ」をみ
んなで見ました。職場体験を通して、
公害や環境のことに目を向けてもら
えたら、と思います。

あおぞら財団 会員総会 開催

日時 2008年3月1日(土)午後2時～午後5時

場所 あおぞら財団

会員みなさんと、いままでを振り返り、これからを語りたい...
財団への思い、言いたいこと、直接、声を聞かせてください。
会員の方、興味のある方ならどなたでも参加できます。

リレーエッセー

「ここがわがふるさと!」と 胸をはって言える街に

永野千代子



第36回西淀川公害患者と家族の会総会(2007.10.27)にて

西淀川公害患者と家族の会の永野と言
います。

私がこの運動に参加したのは、死んだ次
男が公害病に認定された事が始まりで、も
う30年位になります。次男は、裁判の1次
原告でしたが国道43号で信号待ちをしてい
るとき、暴走車にひかれてなくなりました。
企業との和解金で出来た「あおぞら財団」。
私たちが患者原告は、財団の人たちに期待を
かけています。なぜなら私たち原告は、難
しい理屈は分かりません。とにかく企業の
煙、車の排気ガスが原因で公害病になった
事ははっきりしています。財団の優秀な職

員の方と一緒に、汚
された西淀川を再生
し、「ここがわがふ
るさと!」と胸をは
って言える街にし
ていきたいです。みな
さんの力をお借りし
て、私たちも頑張り
ますのでよろしくお
願い致します。

(ながの ちよこ・西淀
川公害患者と家族の会
事務局長、財団評議員)



えんしゅう ひろみ
遠州 尋美

大阪経済大学経済学部教授・同地域活性化支援センター長。主な研究課題は市民参加型まちづくり。現代GPプログラム「地域に開かれた体験型環境・まちづくり教育」の取組責任者をつとめるとともに、大阪経済大学が結成を呼びかけた「ECOまちネットワーク・よどがわ」事務局長として、環境・まちづくりに取組んでいる。

「成長か？ 停滞か？」「なんて、寝ぼけたことを言うんじゃない」

「こいつは馬鹿だ」

安倍晋三首相が、所信表明を行って2日後に、突然辞任した。参議院選挙での大敗にも関わらず首相の座にしがみつき、テロ対策特措法の期限切れを目前にして中止を余儀なくされようとしている自衛隊の海上給油活動の継続に、「首相としての職を賭す」とまで大見得をきった直後だっただけに、永田町を含めて、国民全体が唖然とした。何という無責任。何という間の悪さ。

一年弱という短い期間とはいえ、これほど政治センスの欠けた人物を、政界のプリンスと期待を込め、首相に押し頂いてきたとは恥ずかしい。

安倍氏が政治家としての資質に欠けると思わせる兆候は就任直後からいくつもあつ



たが、私が、あまりの非常識に驚いたのは、参議院選挙中の彼の演説だった。「成長か？ 停滞か？」と安倍氏流の争点を選挙力の上から絶叫する姿をテレビで見ても、「こいつは馬鹿だ」と思わず口走ってしまった。

日本の民主主義を問う

ドイツサミットで、2050年までに温室効果ガス排出を半減させると、合意してきたばかりではないか。2007年を境に、日本の人口は今後減少していくことが避けられないことは、小学生でさえ知っている既定の事実ではないか。グローバル化を煽り、内需拡大と称して開発を煽り、バブルを膨らませた結果、その崩壊によって20年近くも苦しみ続け、国も地方も借金まみれになったのではないか。現実を直視することも、経験から教訓を汲み取ること、物事の因果関係を理解する洞察力も持たない人物が、政治の中枢で脚光を浴びる日本の民主主義とは何なのだろうか。

環境親和型のくらし、経済

温暖化、少子高齢化、空洞化など、いま私たちが直面する困難を克服する鍵になるのは、浪費型のくらし、経済を、ストック

重視で環境親和型のくらし、経済に改めることだ。安倍氏がサミットで合意した「2050年までに温室効果ガス半減」という目標は、「21世紀中の気温上昇を産業革命以前の定常状態から2 未満に抑える」というEU諸国の合意を前提としている。IPCC第4次評価報告書の予測が正しいなら、この目標は、化石燃料に依存した経済成長優先の市場主義シナリオ(A1FI)では決して達成できない(予測幅は2・4、6・4)。持続的発展型シナリオ(B2)を採用してさえ、容易ではないのだ(予測幅は1・1、2・9)。

成熟社会の仲間入りを

そもそも、供給側の効率をひたすら追い求める歪んだグローバル化の結果、世界経済の成長率は1960年代をピークに下がり続けている。安倍さん。未だに人口増が続く世界経済全体で見ても、成長シナリオなど描けない。ましてや人口減少の日本においておや。私たちが望むのは、薄っぺらな成長じゃない。落ち着いた思いやり深いまちで、良いものを末永く使い、豊かな自然と香り高い文化を愛でるくらしなのだ。そろそろ日本も成熟社会の仲間入りしてもよいころだ。